

次期総合計画・都市計画マスタープラン  
光が丘地区まちづくり会議報告書

平成30年10月  
光が丘地区まちづくり会議

# 目次

## (課題と対応方策)

- 1 【重点】道路・交通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 2 住環境・生活環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- 3 自然・環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- 4 安全・安心・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
- 5 健康・医療・福祉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
- 6 教育・子育て・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6
- 7 【重点】地域コミュニティ・・・・・・・・・・・・・・・・ P 7

## (付属資料)

- 会議経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9



(出典：光が丘地区自治会ホームページ)

## 1 【重点】道路・交通

### 現状と課題

光が丘地区は、近隣に圏央道のインターチェンジが開設されたことにより、交通利便性が向上しました。また、地区内の道路がきれいになり、良好な街並みが形成されています。

その一方で、圏央道の開通に伴う嶽之内当麻線の渋滞の慢性化や地区内道路の抜け道利用の増加による交通事情の悪化への対策と、村富相武台線への大型商業施設の立地に伴う横断歩道・歩道橋以外の場所での道路横断者の対策が必要です。

また、村富相武台線は幹線道路であるにも関わらず、電線類が地中化されておらず、大規模災害時の電柱の倒壊が危惧されるほか、さらに、地区内道路の歩道の段差や傾斜が解消されておらず、高齢者や車椅子の方などの増加が見込まれる中、バリアフリーの実現に向けた早急な対応が必要です。

さらに、鉄道駅への移動に重要な路線バスの最終時刻が早く、主に通勤で利用している住民からは、利便性の高いダイヤが求められています。

### 対応方策

生活道路の危険な箇所におけるゾーン30の導入、時間による通行規制、感応式信号機の設置などの取組の推進（行政・警察）  
車道と歩道を同じ高さにして縁石で区分することや、インターロッキングをアスファルト舗装へ打ち換えるなど、歩道の段差や傾斜の解消を図るとともに、村富相武台線の横断歩道以外の場所での横断対策として、中央分離帯又はポールコーン、新たな横断歩道の設置などを進める（行政・警察）

- ・ 渋滞する路線の信号のタイミング調整（警察）
- ・ 村富相武台線の電線類の地中化（行政・民間）
- ・ 特に淵野辺駅、相模大野駅の最終電車の時刻と連動した路線バスの最終時刻への対応、又は小型バスの導入の検討（行政・民間）
- ・ 渋滞対策や交通事故対策の推進に向けた専門家による総合的な分析

(行政・市民)

- ・道路の小さな植込みにベンチ等を設置することで、雑草を生えにくくするなど、綺麗な街並みの形成の推進(行政・市民)
- ・圏央道の利用促進による一般道路の渋滞緩和を目的としたメリットの検討(相模原愛川IC～相模原IC間の料金を下げるなど)(行政・民間)



【村富相武台線の電線】



【歩道と車道の傾斜、段差】



【ゾーン30の標識・路面表示】



【村富相武台線に立地した大型商業施設】

## 2 住環境・生活環境

### 現状と課題

近年、古い家の建て替えが進んできている一方、全体としては空き家が増加しており、防犯、公衆衛生、景観等の問題が懸念されることから、安全対策や有効活用に向けた検討が必要です。また、ごみ出しの曜日や分別のルールが守られていない状況があるため、その対応が必要です。

### 対応方策

- ・ 空き家の実態調査を進める（市民）
- ・ 空き家の実態や有効活用に関する情報を地域と行政が共有するとともに、空き家問題の解決に一体となって取り組む（行政・市民）
- ・ 地域でごみ出しルールを徹底させるため、自治会への加入を促進させる（行政・市民）
- ・ 外国人市民が増加していることを踏まえ、ごみの出し方の看板やルール違反のシールに外国語を表記する（行政）

## 3 自然・環境

### 現状と課題

隣接する淵野辺公園は、光が丘地区でもこども未来ワールド等で活用していますが、防犯灯のLED化やテニスコートの拡張など、治安や利便性が向上しています。その一方で、駐車場に放置車両があり、施設を利用したい市民が迷惑しており、その対応が必要です。

### 対応方策

- ・ 利便性向上に向け、駐車場の監視や放置車両の撤去の強化などに取り組む（行政）

## 4 安全・安心

### 現状と課題

防犯灯のLED化や防犯カメラの設置、光が丘地区における独立防災隊の設立や見守り隊による登下校時の児童・生徒の安全の確保などの取組により、地区の安全・安心に対する意識は高まっています。

その一方で、自動車や自転車の交通事故が無くならず、近年では大人の自転車運転マナーの悪さも目立っています。また、空き巣や変質者による被害が増加していますが、犯人が捕まらず、住民生活を脅かしています。

### 対応方策

- ・事故の削減に向け、まずは大人がマナーを守り、子どもに見本を示せるよう、地域、行政、警察などが連携・協力して安全運転講習や街頭指導を行うなど、教育・啓発を徹底する（行政・警察・市民）
- ・自転車運転時のヘルメット着用の促進や、大人向けの自転車安全運転講習会の実施。実施に当たっては、多くの参加が見込めるよう、メリットを検討する（行政・警察・市民・民間）  
（例：講習会参加者は、自転車損害賠償保険料の割引が受けられる、自転車店でパンク修理の割引がある など）
- ・スピード違反の多い場所や、自転車利用者、高齢者、幼児が多く通行する箇所などの対象を絞った取締り、啓発の実施（行政・警察・市民）
- ・高齢者の自動車運転免許の返納の促進（行政・警察）
- ・電柱への「自転車も止まれ」の反射材の設置やお祭りなどでの展示など、目に見える啓発活動の実施（行政・市民）
- ・空き巣や変質者の撲滅に向け、防犯カメラやセンサーライトの設置の推進（行政・市民）
- ・子どもの見守りに多くの保護者の協力が得られるよう、PTA経験者などに関わってもらう取組を検討。取組の推進による見守り隊への理解促進や負担の軽減（市民）
- ・防災意識の更なる向上に向け、若者や女性の自主・独立防災隊への

加入の推進や、防災に関する専用看板の自治会掲示板横等への設置  
(市民)

## 5 健康・医療・福祉

### 現状と課題

光が丘地区の近隣にある北里大学病院がリニューアルされ、最新設備が導入されるなど、地区の健康、医療の要衝として利便性が向上しました。今後は、光が丘地区内の診療所等との一層の連携が期待されます。

### 対応方策

- ・北里大学病院と診療所等との一層の連携・強化を図ることで、地区内の健康、医療に関する環境の向上に取り組む(民間)

## 6 教育・子育て

### 現状と課題

見守り隊の設置による登下校時の児童・生徒の安全確保の取組や、子ども会の復活、地区子ども会育成連絡協議会への若い育成者の参加、こども未来ワールドの開催など、光が丘地区の教育・子育てに関する環境の整備が進んでいます。

その一方で、少子化の進行による地区内の小学校の統廃合に伴う教育環境への影響の懸念や、小学校の校庭が放課後、土日、夏休み等に解放されないことなどにより、子ども達が自由に遊べる場所が減少しており、その対応に向けて、行政、学校、地域の更なる連携・協力が必要です。

### 対応方策

- ・ 統廃合となった場合の小学校跡地の活用の検討（行政・市民）  
（例：地域で活用できる場、子どもが自由に遊べる場、避難所 など）
- ・ ボール遊びなど、子どもが自由に遊べる場所を確保するため、放課後、土日、夏休み等の学校の開放（行政・地域）
- ・ 全小学校での放課後子ども教室の実施（行政）
- ・ 学校開放に伴う防犯上の課題解決に向け、防犯カメラの設置による集中監視、通報システムの導入など、ICTの活用や民間と連携した経費の負担が大きくなる取組の検討（行政・民間）
- ・ 学校ホームページの更なる周知による学校と地域との情報共有（行政）
- ・ 不登校児童・生徒への民生委員・児童委員の一層の協力体制の強化（行政・市民）
- ・ 子どもの見守りに多くの保護者の協力が得られるよう、PTA経験者などに関わってもらう取組を検討。取組の推進による見守り隊への理解促進や負担の軽減（市民）（再掲）
- ・ 子ども達のコミュニティの活性化に向け、子ども会やジュニアリーダー等の活動の場を保護者に見てもらえる機会の確保（行政・市民）



## 7 【重点】地域コミュニティ

### 現状と課題

光が丘地区では、平成25年4月に地域コミュニティ活性化の新たな拠点として、「光が丘ふれあいセンター」を開設し、従来からの公民館の生涯学習事業に加え、子どもからお年寄りまで、全ての世代が交流し、学ぶことができる様々な事業を展開しています。また、少子高齢化や地域コミュニティの希薄化が進む中、ふれあい・いきいきサロンの実施、子ども会の復活、地区子ども会育成連絡協議会への若い育成者の参加、こども未来ワールド、ふるさとまつりの開催など、地域や学校、大学、行政などと連携しながら、地域の活力の向上を図っています。

その一方で、高齢化による自治会加入率の低下、高齢の単身・夫婦世帯の増加、老朽化している県営上溝団地の居住者の減少による空洞化などが進んでおり、その対応が必要です。

### 対応方策

地域や学校、大学、行政などが連携し開催している「こども未来ワールド」は、地域コミュニティの活性化や青少年の健全育成等に非常に有意義であるため、引き続き、関係者の協力のもと、継続し開催する  
(行政・市民・大学)

老朽化している県営上溝団地は、若い世代を呼び込み、地域が活性化されるよう、建て替えやリノベーションの実施に向けた検討を進める  
(行政)

- ・自治会の会則を見直し、合理化、効率化等により負担の軽減を図ることで、お年寄りでも安心して加入し続けられるよう検討する(市民)
  - ・老人会への加入促進を図り、コミュニティの活性化に取り組む(市民)
  - ・子ども達のコミュニティの活性化に向け、子ども会やジュニアリーダー等の活動の場を保護者に見てもらえる機会の確保(行政・市民)
- (再掲)



(付属資料)  
会議経過

日程	会議内容	委員出席数
平成30年 5月17日	第1回 ・全体説明	27名
7月11日	第2回 ・地域の課題(良くなった・悪くなった点)の抽出	23名
9月7日	第3回 ・課題と対応方策の検討(主にハード分野・ソフト分野) ・良くなった点をより良くしていく方策の検討	27名
10月2日	第4回 ・報告書のとりまとめ、重点項目の検討	27名



【まちづくり会議の様子】